

第 6 回「母子保健福祉研修会」

2004 年 2 月 2 日 (日)

会場：(社)日本理学療法士協会会館 10:00 - 15:40



主催 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

主任研究者 山縣然太郎 (山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学 講座)

社団法人 日本理学療法士協会社会局公益事業推進部

プログラム

1. 趣旨・目的

健やか親子 21 と理学療法士の関わりについて、健やか親子 21 公式ホームページを通じて、具体的に提示・検討していくことにより、健やか親子 21 推進の重要な一端を担う専門職としての認識を高め、健やか親子 21 の取り組みに、効果的な関わり方ができるように、1 人 1 人が考える場とすることを目的とする。

2. スケジュール

午前の部 健やか親子 21 公式ホームページの紹介 (10:00 ~ 12:10)

1. 開会の挨拶

2. 講師紹介

山縣然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座教授
近藤 尚己	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座助手
山田 七重	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座
中村 和美	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座

3. 講義 「健やか親子 21 と理学療法士との関わり」

4. 感想用紙記入

午後の部 健やか親子 21 取り組みのデータベースについて (13:30 ~ 15:40)

1. 講義とグループワーク 健やか親子 21 のホームページの中で、特に「取り組みのデータベース」の情報検索について紹介します。また、実際に理学療法士が関わっているデータの紹介等を通して、具体的な理学療法士の健やか親子 21 への関わり方について検討します。

2. ディスカッション

3. 閉会のことば (山縣)

4. 感想用紙記入

5. 修了書授与



研修会の概要

1. あいさつ(久富)

平成12年度から「健やか親子21推進協議会」に参加しており、これからも積極的に参加していきたいということで、本日、この研修会をお願いした。母子保健の中で、理学療法士がどのように関わっていけば良いのかという課題がある。理学療法士として、乳幼児との関わり以外にも、子育て支援や妊婦への支援に参加して行きたい。本日の研修会を、話を聞くだけのものではなく、情報交換の場としていただければ幸いである。



2. 講師紹介(縄井)

山縣 然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座教授
近藤 尚己	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座助手
山田 七重	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座
中村 和美	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学	講座



3. はじめに(山縣)

理学療法士という職については、現在は、3次予防への関わりが主となっていると思うが、今後は、国の基本的方針が治療から予防へと変わったことを受けて、機能を失った障害者の社会復帰への支援に加えて、機能を落とさないように訓練する1次予防への関与も大切になってくるだろう。一方で、国の母子保健・少子化対策の流れは大きく変わろうとしており、健やか親子21もその流れの中にある。今日は皆さんが、今後、具体的に母子保健にどのように関わっていくか、ということについて、一緒に考えて行きたい。



4. レクチャー「「健やか親子21」における理学療法士の役割」(山縣 10:15 - 11:15)

1) 「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」の紹介

(PPT 別添したパワーポイントの資料 p2-9)

- ・研究の一環として、母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のために「健やか親子21公式ホームページ」を作成、運営している。
- ・またこの中で、2つの情報提供データベースを構築している
- ・他に小児の事故予防や母子心理に関する介入研究を行っている

2) 健やか親子21について(PPT p10-32)

- ・国民運動計画、少子化対策、健康日本21の一翼、2001 - 2010年、ヘルスプロモーション
- ・乳幼児死亡率は下がったが、不慮の事故による乳幼児死亡等に課題が残っている
- ・課題1：思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
- ・課題2：妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
- ・課題3：小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
- ・課題4：子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

- ・理学療法士の関わり：課題4に包含。「臨床における子どもの心の問題に対応するために、小児科医のみならず、小児科医以外の医師や看護婦・士、理学療法士、言語療法士などの小児医療に関連する職種についても、子どもの心の問題に関する研修システムの確立を図る。」
- ・目標値の設定：例えば10代の性感染症を減らす、という目標を達成することを考えた時に、具体的に性感染症の知識を持った子どもの割合を増やす、等の具体的な目標値を出して、達成しようとするものである。
- ・こういった活動を通してみんなで実現して行こう、とする運動が健やか親子21である。

3) もう一段の少子化対策「次世代育成支援対策推進法」(PPT33-43)

- ・健やか親子21は法ではないので、次世代育成支援対策推進法が制定された。
- ・具体的な行動計画を地域で立てることによって、実際に少子化対策を実践することを目指すものである。市町村、都道府県、300人以上の事業所の事業主、特定事業主に対して、行動計画を立てなさい、というものである。
- ・この法は、生みたくない人に生め、という法ではない。これまでの研修会の中で、少子化対策は、子どもの数を0から1にする対策なのか、1から2にする対策なのかという議論があった。これは、1から2に対する対策で、もう一人生みたいが、経済的・職場環境的に難しい、といった事情があるお母さんをサポートしていくものであり、働いているお母さんがターゲットとなる。
- ・健やか親子21との関わり：「(2)母性ならびに乳児および幼児の健康の確保および推進」の部分で「健やか親子21の趣旨を十分踏まえたものとする」となっている母子保健の領域そのものの内容である。これを健やか親子21の法制化と捉えると、健やか親子21をきちんと推進していかなければいけないということの裏づけとして、認識できると思う。

*** ここまでの質問 ***

深山 各市町村が行動計画を立てるということだが、やったものには、報奨等の評価がされるのか？

山縣 とても大切な部分だと思う。これは「絶対に行動計画を立てなければならなくなった」という、縛りができた、ということである。法制化以前は、例えば母子保健計画等、立てなくても怒られなかったが、今度はこれが義務になってしまった。市町村合併等の問題もあるが、どうあっても来年までに作りなさい、という縛りである。それに対して、報奨が出るかということ、色々な補助金が出てくる。例えば、新生児訪問の予算が20億円あり、1000市町村だけ手を挙げてもらって国が半分補助したり、1/4は県から補助金を出すとといったようになる。事業をできるところには補助金を出して、できるようにする、という形が健やか親子21の時よりは出てくると考えられる。

5. グループワーク その1「アイスブレイキング 「子どもとの関わり」で感動したこと」

(全員 11:15 - 11:45 PPT44)

3つのグループにわかれて、グループワーク

発表(11:40 - 11:55)

1G (清宮)

私たちの仕事は直接障害を持った子どもに関わることが多いので、その関わりからの感動が多い。子どもをのり見ていた子どもに久しぶりにあって、その成長ぶりに感動したこと、5歳の障害を持った子どもが、自分の障害が重く「お母さんへの負担が大きいので、自分を殺してほしい」と母親に訴えたという話を聞いて、絶対に何とかしたいと思ったこと、子どもと遊んでいる時や抱っこをねだられた時に、暖かさを感じたこと等がでた。さらに、子どもとの関わりの中で、面白かったこととして、「お鍋を食べるって言うのに、フライパンを食べるって何で言わないの?」って聞かれて、お母さんは「黙って早く食べなさい」と言ってしまった話もでた。



2G (志水)

子どもが大きくなって病院にあいさつに来てくれたこと、脳性麻痺の子どもが長期入院していた時に、「ママに早く会いたいから、がんばって出てきたんだよ」と言っていたこと、脳性麻痺の子どもが、自分の足の変化に気づき、上手な使い方を自分で探ようになったこと、スタッフ同士で手技を検討したことで子どもの症状を改善できた時のこと、長期入院児が退院した時に、保育園の先生や友達が暖かく迎えてくれたこと等がでた。



3G (渡部)

母親から「退院したい」という希望が出てくるまでは待っていて、傍にいたことをずっと伝え続けた関わりのこと、子どもが好きなので、ただ子どもと一緒にいるだけで感動すること、情報を伝えることで、障害を持った子どもが成長していくのを見ること等がでた。



山縣 大変滑り出しが良く最初のグループワークから、盛り上がったと思う。保健師さんに「保健師になって感動したこと」と聞くと、すごく困ってしまう。今日はすんなり出てきた。その違いは、人に対する仕事をきちんとしているところと、机上での仕事をしているところだと思う。今の保健師さんの仕事が机上での仕事がだんだん多くなってきていることの現われだと思う。皆さんの仕事は人との関わりが多くて、すんなり出てきたのだと思う。

6. レクチャー「健やか親子21 公式ホームページの紹介」11:55 - 12:15 (山縣 PPT45-68)

- ・ 取り組みの目標値：図表をエクセルファイルでダウンロードして活用できる
 - ・ 母子保健・医療情報データベース：約3200の全国的な調査研究の文献情報をまとめたもの
 - ・ 取り組みのデータベース：約3000件の全国の健やか親子21の取り組みに関する情報をまとめたもの
事業の企画立案・実施・評価に利用できるデータベース
- < 理学療法士の関わる取り組み情報：現在データベースに登録されている中で、15件あり。 >

7. グループワーク その2 「子育て支援で理学療法士が関わることができる事業はどんなものがあるか」

(全員 13:30 - 13:55 PPT68)

発表

2G (志水)

結婚前の生活習慣(発達段階の延長)、変股症オペ後のケア(出産や子育てへの配慮)、妊娠中の身体愁訴へのアプローチ(妊婦体操、産前産後の腰痛教室、産後のケア)、健常児の発達健診への立会い、障害児発達指導(喘息教室、訪問指導、障害児の装具・靴・車椅子・杖等の調整)、家族への啓蒙、住宅改修、母子相談、就学相談、保育園・幼稚園への指導

3G (久富)

両親学級、乳幼児健診、発達健診、障害児の子育て支援、低体重児、小児糖尿病児への教育、障害児の通う保育園・学校の先生への支援、地域の話し合いの場、舗装具・住宅改装・一時貸し出し、訪問、家族への支援、啓発活動、留守番等に関わる祖父母・兄弟支援 代理保育

1G (湯浅)

乳児健診、言語相談、就学相談、母子相談、住宅環境(バリアフリー)、病院での通院訓練、通所訓練、訪問、講習会開催

山縣 例えば、喘息との関わりはどんなものなのか?

井上 公害保障係で行っていて、疾患児を集めて一週間くらいで、キャンプや音楽療法を行う中に理学療法士が関わっている。

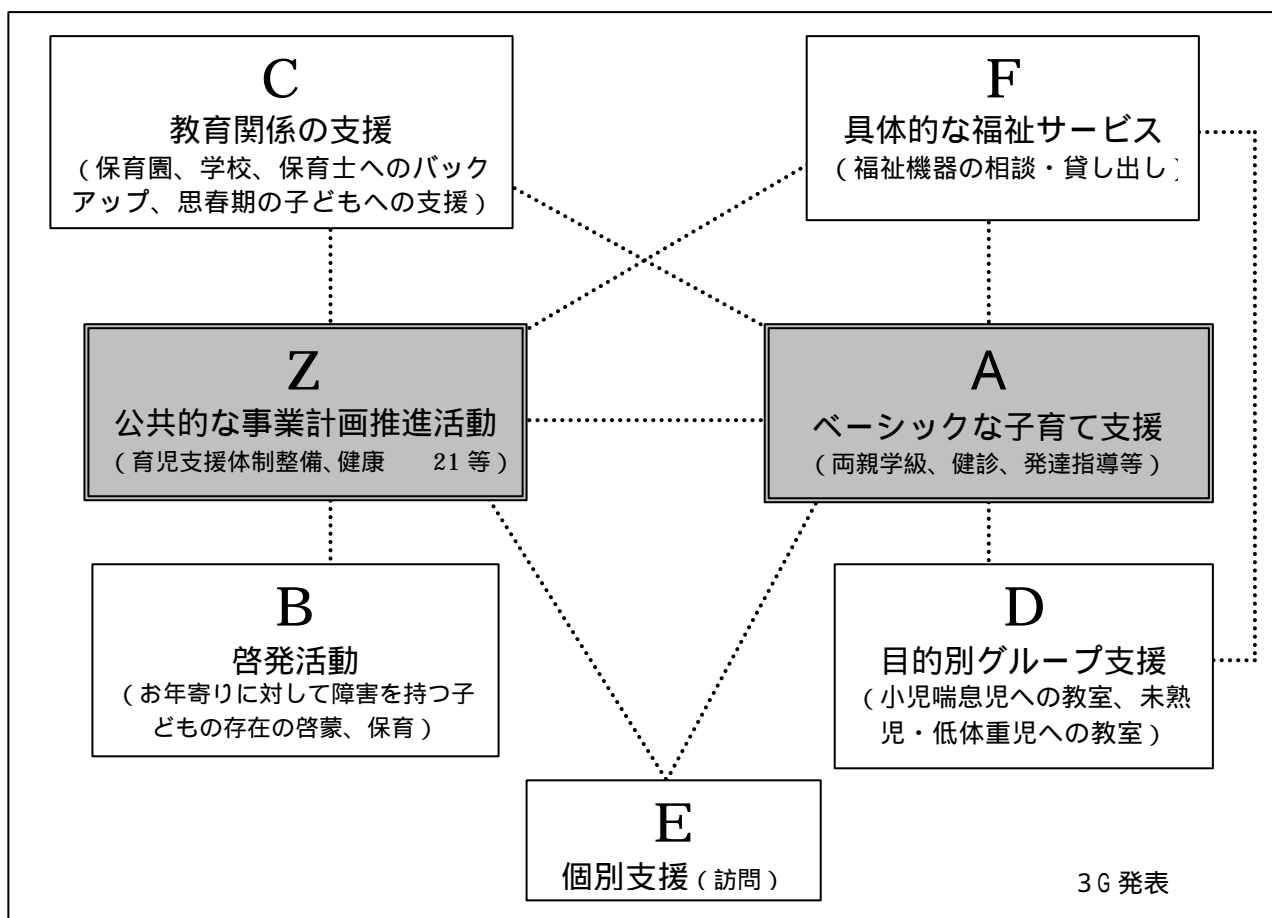
8. グループワーク その3 「事業のグループ分け」(全員 13:55 - 14:20 PPT69)

山縣 今、事業を出したが、他の地域で、どんな事業をしているのか、というのを知ることができるのがデータベースである。資料として現在登録されているものを出してある。グループワークで出たものもあわせて、グループ分けをしてもらいたい。まず、どういうグループ分けをするかを出し合って、進めていってほしい。



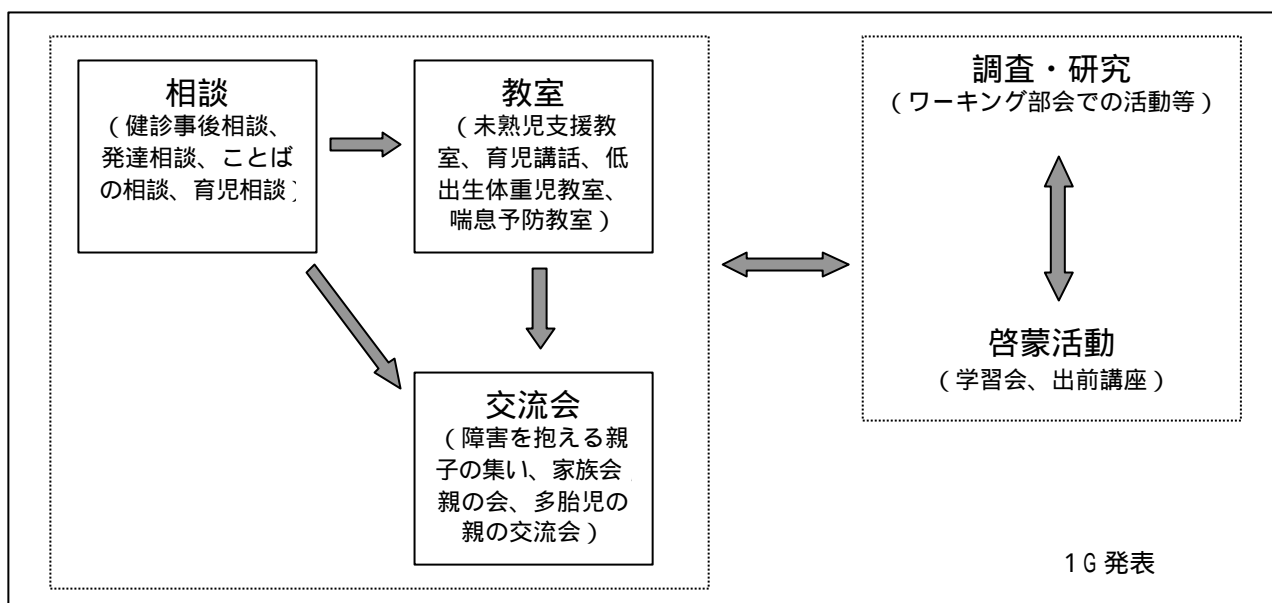
発表

3G(濱崎) 大きな柱が2つ(AとZ)あって、それに様々なものが関わっているという風に整理した。

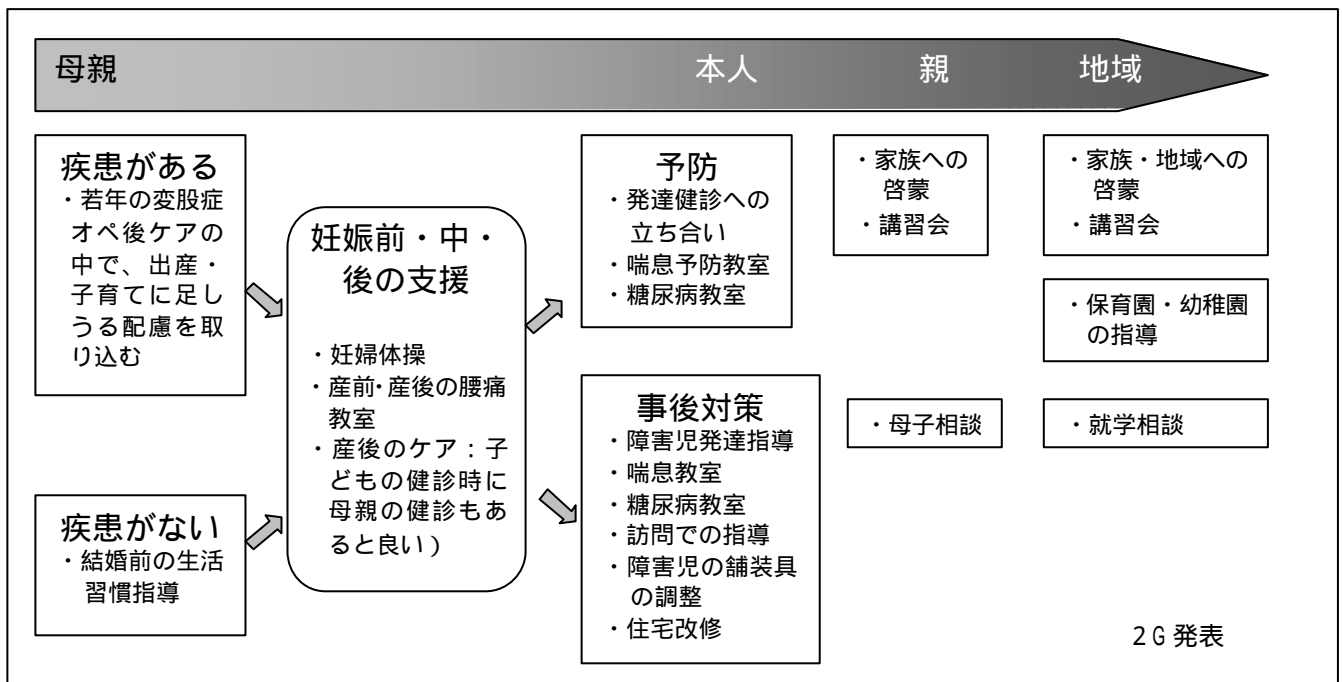


山縣 つまり、Zが「ねばならない事業(法律で決められている事業)」、Aが「こういうことをするともっといいという事業(法律外の事業)」と理解できると思う。

1G(桜井) 相談・教室・交流会と、調査研究・啓蒙活動という大きなくくりで整理した。



2G(井上) 予防・事後対策と子ども・親・地域に対するものという軸で考えた。母親に対するケアは、疾患や障害の有無に関わらず、関わりが持てると思う。実際にはまだ、あまり行われていないと思うが、妊娠を機会にアプローチすることが、とても大切なものだと思う。



山縣 事例になかったものも含めて、それぞれのグループの特色を生かして、大変興味深くまとめられていたと思う。3Gは、骨格が実際にある社会の中での動きを中心にグループ分けされていた。子育て支援と、事業計画が中心となって、分野別のグループ分けになっていた。1Gは、行政的な視点だと思う。比較的すっと入れる分類だったと思う。2Gは、問題や課題を中心としたまとめ方だったと思う。こんなわけ方が出てくるだろうな、というのが、それぞれ出てきていたと思う。

9. グループワーク その4 (全員 14:20 - 14:25 PPT70-75)

・緊急度、重要度とは？

山縣 これらの事業をどんな風に進めていくかという時に、優先順位をつけることになると思う。この視点で考えていくと、2Gが提案してくれた、課題を中心とする分け方がフィットすると思う。優先順位を決める時、緊急度・重要度という2次元展開法を使うが、具体的に緊急度・重要度とはどんなことが、少し話し合っほしい。

1G(湯浅) 緊急度：命に関わること 今障害を持っていてハイリスクの子どもへの対応

重要度：これからの予防を考えたもの 妊産婦の方を対象とした教室等

2G(井上) 緊急度：命に関わること その原因は子どもの病気の場合も、家族の環境の場合もあるので、それぞれ対応していく。

重要度：命に関わることは同時に重要。もう一つ、住民のニーズが高いものも重要。

3G(深山) 緊急度：命に関わること

重要度：啓発活動、環境づくり 対象が広く、時間がかかるが、必要となってくるもの。

山縣 どれだけ多くの人に寄与するか（寄与危険度）、という公衆衛生の考え方を紹介する。

こう考えていくと、緊急度とは、数は少なくとも生死に関わるもの、重要度は、すぐには命には関わらないかもしれないが、たくさんの方が対象となるもの（悩んでいるお母さん）と考えることができる。これらを考え合わせてバランスの良いところの事業を展開すると、うまくいくかもしれない。今回出された事業をこういった視点で、考えて行ってもらいたいと思う。

10. グループワーク その5「企画案の作成」(全員 14:25 - 14:35 PPT76)

山縣 一つ事業をあげて、その企画案を作ってみる。

まず、何を目的にどんな事業をするか、ということを考えてもらいたい。目的、ねらい、効果、キャッチフレーズ等を考えて欲しい。

発表

2G(早瀬川)

「出生前から、ライフサイクルを通じていつでも、子育てについてPTに関われるシステム作り」乳幼児期は、健診でPTに相談があるときに相談につながるようにする。3歳以降は健診がないが、希望にあわせてPTと関わることができるようにする。就学後は、体力テストや、肥満等の問題が発見された時に、学校の先生とタイアップして、相談に結びつくような窓口を行政に用意する。就学年齢で学校に行っていない引きこもり等のケースに他の機関が対応している場合にも、身体的問題が疑われた時には、PTがさっと関われるようにするシステムを作る。

山縣 まだ一般に、理学療法士にかかると、こういう相談を受けられ、こういう対処をしてくれる、ということが知られていないように思う。だから、こんな相談を受けられるということ、マニュアル等を作ってアピールしていくことが大切だと思う。ぜひ実現させていただきたい内容。

3G(渡部)

「乳児健診、発達健診の時に、PTとして関わる」

医師の都合で、健診中に昼寝の時間がある場合がある。また、日常、日ごろの子どもたちの生活が見えない。これに対し、子どもの生活リズムにあった時間や場所で、PTによる巡回健診をしたらどうか、という企画。問題はお金。

山縣 今はPTが家庭に行くことは多くないのだろう。PTとしてのフォローにとって、家庭環境を知ることが大切。何より、サービスを受ける側に立った視点がとても良いと思う。お金の問題はあってもいいかもしれないが、現行の健診業務等に、加えることで十分可能な内容と思うので、ぜひ実現を。

1G(桜井)

「わくわくプレイランド」

背景：最初の子どもが健常児ではないと、母親が1人で、障害児への対応に悩みがちである。実際におとなしいので、好きなビデオを一日つけっぱなしにしていたケースもあった。この事業で、わが子を大切に思う気持ちや、わが子と接することが楽しくなれば良いと思う。

目的「障害を持った子どもをもつ母親に遊びを通して子どもとのふれあい方を指導する」

内容：遊び方（スキンシップ、だっこの仕方）身近なものを使ったおもちゃの作り方、遊び方。

効果：子どもの喜びがわかることによって、母親自身も楽しく子育てできる。また、子どもの状態を理解する。

山縣 非常に良くまとまっていて、予算等のことを付け加えれば立派な企画書になる。現在は健常の子に対する事業はいっぱいあるが、障害のある子に対するものは難しい。「効果」の概念はすばらしい。これはかなり次世代育成の中の、要保護児童の項目でどんどん扱われていくべき内容。健やか親子21でも当然あてはまる。どこかでぜひ実現させてもらいたい。

また、今日準備したが、紹介しきれなかった内容については、資料を後程渡せるようにする。

(PPT77-82)

11. 感想発表及び修了証授与（全員 14:35 - 14:40）

1G

桜井 パソコンのことは良くわからないのだが、内容はわかった。市町村で色々取り組んでいることが解った。一つの事業をどうやって展開していくのか、というのが何となくわかって勉強になった。

清宮 たのしく研修できた。

湯浅 職場は高齢者なので、テーマが難しいと思ったがわかりやすかった。大変参考になった。

2G

瀬川 どれだけ関わりがあるか、と思ったが、身近なものだと感じる事ができた。楽しかった。

井上 普段、母子関係は関わる機会が少ないが、今日は良く学べた。

志水 友人からの相談をきっかけに受講した。普段は成人を扱っているが、機会があったら、行政にも働きかけたい。

3G

渡部 普段は高齢者が対象だが、母親として考えさせられた。また日常業務でも、たまに関わりがあるので、興味深く学べた。

濱崎 データベースとは固い話かと思ったが、そうではなかった。会社としてのビジネスチャンスのヒントを得た。

深山 緊急度、重要度から決めていくという事は、国の官僚も同じようにやっているのか？今日はありがとうございました。

久富 一研修生として参加した。一つ一つ事業化していくことが順を追ってわかった。楽しく研修させていただいた。

山縣 最後に、地域と関わる中で、皆さんがいるんだ、ということをごだけの人を感じているか、ということはとても大きなことだと思う。日々過ごす中で、何かあった時に、頼ってくる、ということはとても大事。そういったところから、生活の満足度等が出てくる。住民のために、こんなことをしたらいいというようなことは、こういった会でわかると思う。住民とも積極的にこういった会を持って、いい地域を作っていくために今後もがんばっていただきたい。意見交換の場として、母子保健関係者のメーリングリストもあるので、参加していただきたいと思う。

